

広島県 CMS 専用サイト制作

ガイドライン

ガイドラインの目的等

本ガイドラインは、広島県で稼働中の広島県ホームページコンテンツマネジメントシステム（以下「CMS」という。）で編集や公開処理が可能な、専用のデザインサイトを構築するために必要な事項を定めるものです。

はじめに

CMS とはコンテンツマネジメントシステムの略であり、HTML・CSS の専門知識がない方でもワープロエディタなどの作成補助ツールを使用し、簡単に Web サイトを作ることができるシステムです。特に、広島県 CMS は WordPress などとは異なる仕組みを持っているため、十分な準備が必要です。また、広島県 CMS 内の Web サイトは一度制作して終わりではなく、納品して頂くデータ含め、更新・追加を繰り返します。

こうした環境下でも問題なく Web サイトの運用ができるように、Web サイトの制作に関わる方は、具体的な手順や要件を理解していただく必要があります。このガイドラインをしっかりと読んでから制作に取り掛かってください。

特に注意して頂きたい事項

- プロジェクトを進めるうえで広報課との協議を必ず設けてください。(1-1)
- 基本的な制作の流れは以下のように進めてください。
 1. デザインプランは広島県 CMS に適用できる形のものとする
 2. HTML 実装において、HTML Living Standard を使用する
 3. CSS 実装において、以下の流れで制作する
 - I. ワープロエディタしか使用できない人のためのタグセクタへのスタイルをまず構築する（詳細度が高まるような親子セクタや兄弟セクタなどは使用しない）
 - II. その後 class や id を使用した class セクタや id セクタなどで上書きをしていく（詳細度が高まるような親子セクタや兄弟セクタなどは使用しない）
- 基本的に職員が更新できる箇所は「ワープロエディタで作成・編集できる箇所」に限られます。(2-2-2)
- ワープロエディタ標準で用意されている HTML タグへのスタイル（「2-2-2. 編集可能部分」（ア）参照）は Web サイト構築時に不要であったとしても必ず記述してください。(2-2-2)
- 広島県 CMS には、新着情報表示機能やアクションボタン機能（いわゆるコンバージョンボタン）など CMS の機能としてあらかじめ存在するものがあります。これらは職員が任意でオン/オフすることができます。Web サイト構築時には不要な機能であったとしても、必要になったタイミングで機能をオンにして使用することがあるので、納品データにはこれらのスタイルを記述した CSS を含めてください。(2-2-3)
- このガイドラインと併せて「広島県 CMS 専用サイト制作 最終チェックリスト」を用意しています。項目を確認してチェックし、日付と社名、担当者名を記入した上で納品データと一緒にご提出ください。

広島県 CMS はテスト環境を準備しています。このガイドラインの説明もテスト環境を参考にとすると理解が深まります。

<http://hiroshima-cms2017.netcrew.co.jp/site/cnproject/>（参考サイト）

（Username：hiroshima、Password：h1r0sh1m@）

（目次）

1. 制作進行における注意点

- 1-1. 進行の参加者
- 1-2. 進行スケジュール

2. 納品物について

- 2-1. 納品データの詳細
 - 2-1-1. 具体的な納品データ
 - 2-1-2. ディレクトリ構造
 - 2-1-3. 各ファイルの詳細要件
 - （ア）HTML ファイル
 - （イ）CSS ファイル・JavaScript ファイルについて
 - （ウ）画像ファイルについて
- 2-2. テンプレート部分と編集可能部分
 - 2-2-1. テンプレート部分
 - 2-2-2. 編集可能部分
 - （ア）「ワープロエディタで編集できる箇所」について
 - （イ）「HTML ソースで編集できる箇所」について
 - （ウ）2 箇所の組み合わせについて
 - （エ）スタイリングについて
- 2-3. トップページについて
 - 2-3-1. 新着情報
- 2-4. 下層ページについて

3. 具体的なコーディングルール

1.制作進行における注意点

広島県 CMS に適用させるサイトを制作するには、進行を適切に管理する必要があります。

1-1. 進行の参加者

デザインやコーディング案の確定は、担当課の職員だけでなく、広報課職員を入れて進めてください。これは、デザインやコーディングの案が広島県の CMS で実現可能なのかを確認するためです。

なお、デザインやコーディング案の確定に広報課職員を参加させることができない場合、広島県 CMS にサイトの構築ができない場合があります。ご注意ください。

1-2. 進行スケジュール

サイト自体の規模感にもよりますが、余裕のあるスケジュールを心掛けてください。なお、データの納品後、公開までは広報課による CMS テンプレート化作業のため 2 週間～必要です。

またテンプレート化する際、「仕様に沿っていないデータになっている」など、手戻り作業が発生する場合があります。これらのタイムロスも加味してスケジュールリングをおこなってください。

2. 納品物について

2-1. 納品データの詳細

2-1-1. 具体的な納品データ

納品していただくのは主に以下の 5 点です。

- HTML ファイル
- CSS ファイル
- JavaScript ファイル
- 画像ファイル
- 広島県 CMS 専用サイト制作 最終チェックリスト

2-1-2. ディレクトリ構造

広島県 CMS にはあらかじめ決められたデータ保存ディレクトリが存在し、新しいサイトを作った場合も、これらのデータを保存する際、既存ディレクトリを使用することとなります。ディレクトリを自由に作成し、サイト制作を行なってしまうと CMS に取り込む際、各ページへのリンク切れ、CSS や JavaScript のリンク切れ、画像のリンク切れなどが起こってしまう可能性があります。

そのため、下に示すディレクトリ構造と指定パスを守って制作および納品を行なっ

さい。

親ディレクトリ（名前は何でも結構です）直下に以下の3つのディレクトリを作成してください。

- site（HTML ファイル用）
- ssi（CSS・JavaScript ファイル用）
- soshiki_file（画像ファイル用）

上記3つのディレクトリは広島県 CMS にあらかじめ用意されているディレクトリです。同じ構造で作成して頂くことにより、ローカル環境から CMS 環境へデータを移行した際、パスの書き換え等の作業をなくすことができ、ヒューマンエラーによるリンク切れや意図しないレイアウト崩れを防ぐことができます。



2-1-3. 各ファイルの詳細要件

(ア) HTML ファイル

site ディレクトリ直下にプロジェクト名 (=サブサイト名) でディレクトリを作成し、その中に HTML ファイルを作成してください。index.html は必要になります。

index 以外のファイル名は任意で命名可能ですが、
英数小文字、ハイフンのみ使用可能です。
英数大文字、アンダースコアは使用できません。

各 HTML ファイルへのリンクは下記パスで記述してください。

(イ) CSS ファイル・JavaScript ファイルについて

ssi ディレクトリ直下に css または js という名称でディレクトリを作成し、その中に CSS ファイルまたは JavaScript ファイルを作成してください。

ファイル名は任意で命名可能ですが、
英数小文字、ハイフンのみ使用可能です。
英数大文字、アンダースコアは使用できません。

CSS ファイルへのリンクは下記パスで記述してください。
<link rel="stylesheet" href="/ssi/css/任意のファイル名.css" />

JavaScript ファイルへのリンクは下記パスで記述してください。
<script src="/ssi/js/任意のファイル名.js"></script>

(ウ) 画像ファイルについて

soshiki_file ディレクトリ直下にプロジェクト名 (=サブサイト名) でディレクトリを作成し、その中に画像ファイルを作成してください。

プロジェクト名ディレクトリ直下には、任意のフォルダを作成し画像ファイルをフォルダ毎に分けて保存することも可能です。例えば HTML ファイル毎に画像フォルダも分ける、パーツのみを収納したフォルダを作るなど、管理しやすい構造で作成してください。

ファイル名、フォルダ名は任意で命名可能ですが、
英数小文字、ハイフンのみ使用可能です。
英数大文字、アンダースコアは使用できません。

画像ファイルへのリンクは下記パスで記述してください。

CSS ファイルからの背景画像等も同じパスで記述してください。

```

```

```

```

```

```

2-2. テンプレート出力部分と編集可能部分

広島県 CMS 内のデザインサイトには「テンプレート出力部分」と「編集可能部分」が存在します。「テンプレート出力部分」はリリース後に操作ができない部分、「編集可能部分」はリリース後にも操作できる部分です。この2つを組み合わせることでページを作成します。

2-2-1. テンプレート出力部分

テンプレート出力部分を各ページに反映させるには、テンプレートを作成し、CMS に適用させる必要があります。

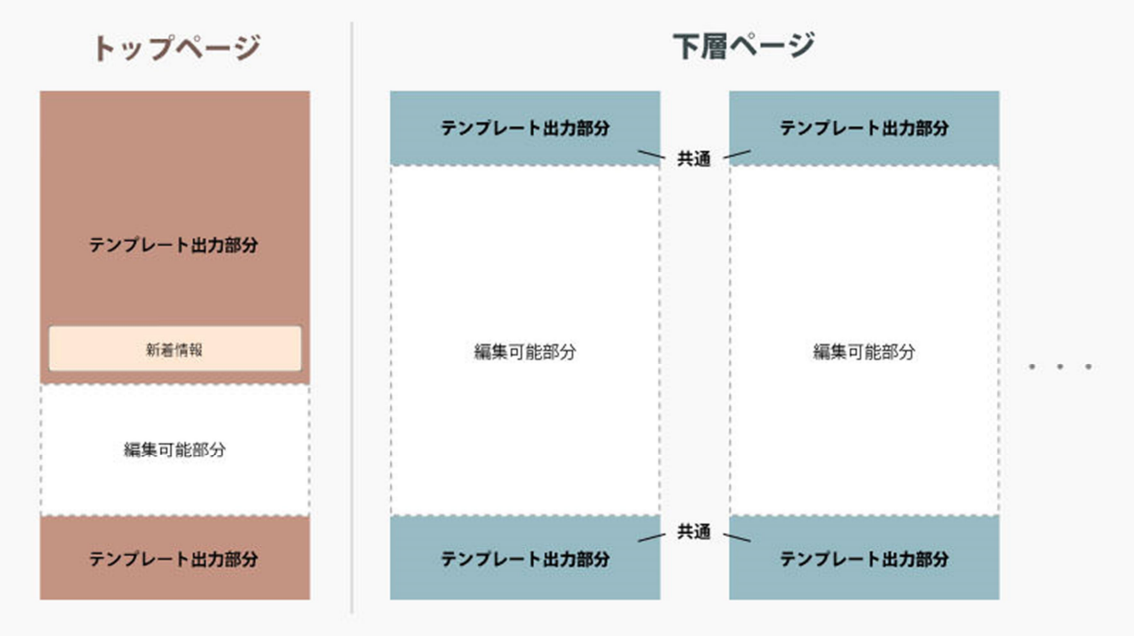
テンプレートには2種類があります。

- トップページ用 (index.html) テンプレート
- 全下層ページ用 (任意のファイル名.html) テンプレート

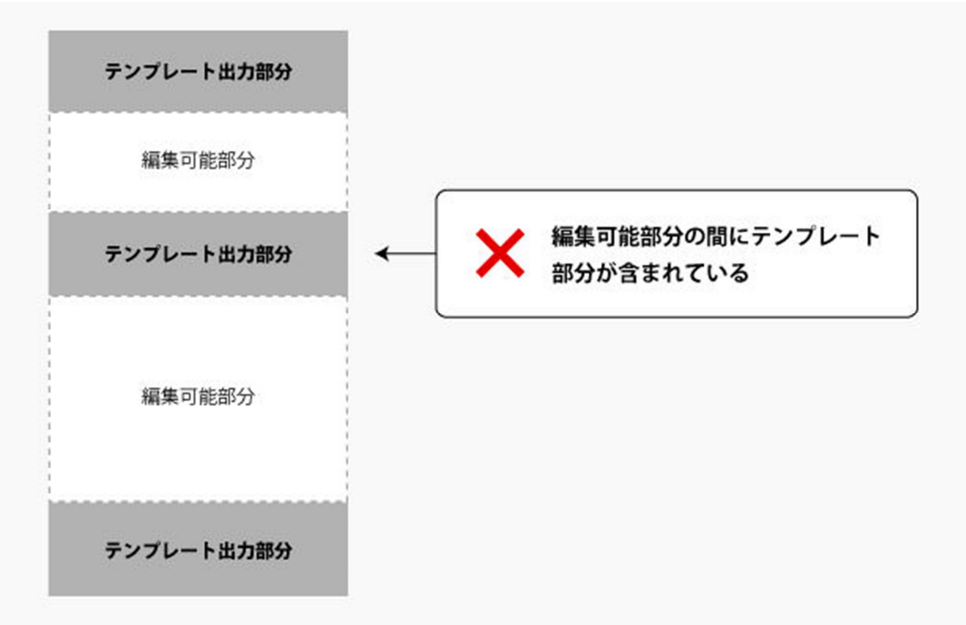
テンプレートが2つに分かれているのは「トップページ用テンプレートのみで CMS 標準機能の新着情報を表示」「トップページと全下層ページでそれぞれ別の CSS や JS の読み込み」ができるようにするためです。

どちらのテンプレートにも<head>タグは必ず必要です。基本的にはどのページにも共通化できるヘッダーやフッター、グローバルナビゲーションなどをテンプレート内に入れてください。(トップページの新着情報はテンプレート出力部分に入れる必要があります:「2-3-1. 新着情報」参考)

下層ページ用のテンプレートは、**全下層ページに同じものが適用されます**。例えば、「ある下層ページ用のテンプレート A' を複数の下層ページの中の A だけに適用させる」というようなことはできません。



また、編集可能部分の中にテンプレート出力部分挟み込むことはできません。
(下図参照)



広島県 CMS テスト環境

<http://hiroshima-cms2017.netcrew.co.jp/site/cnproject/> (トップページ)

<http://hiroshima-cms2017.netcrew.co.jp/site/cnproject/about.html> (下層ページ)

(Username : hiroshima、Password : h1r0sh1m@)

2-2-2. 編集可能部分

編集可能部分は主に「ワープロエディタで作成・編集できる箇所」と「HTML ソースで作成・編集できる箇所」の2つで構成されています。

(ア)「ワープロエディタで作成・編集できる箇所」について

「ワープロエディタで作成・編集できる箇所」は職員の更新が可能です。class や id などを使うことができませんので、デザイン面やインタラクティブ機能の制約を受けることとなります。

なお、職員がワープロエディタで入力した際にもサイトデザインが充たるように、ワープロエディタ標準で用意されている HTML タグへのスタイルはあらかじめ用意する必要があります。

ワープロエディタでは HTML のように id や class の指定をすることができません。誰がページを作ってもそのサイトのデザインと整合性が取れるように、スタイリングを行なってください。

ワープロエディタ標準で用意されている HTML タグ一覧

- 見出し(h2～h6 タグ) ※h1 タグはページタイトルとなりますのでテンプレート出力部分に含まれており、ページ作成からは選択できません
- 段落(p タグ)
- 画像(img タグ) リスト(ul、ol タグ)
- テキストリンクの下線・ホバー等(a タグ)
- 表デザイン(table タグ)

なお、画像(img タグ)、テキストリンク(a タグ)は段落(p タグ)に挟まれます。

広島県 CMS テスト環境

<http://hiroshima-cms2017.netcrew.co.jp/site/cnproject/article001.html>

(「ワープロエディタで編集できる箇所」で作ったページ)

(Username : hiroshima、Password : h1r0sh1m@)

(イ)「HTML ソースで編集できる箇所」について

「HTML ソースで編集できる箇所」は class や id などのセレクトアを使えるので、デザイン面やインタラクティブ機能の制約は受けません。ただし、職員の更新はできません。

広島県 CMS テスト環境

<http://hiroshima-cms2017.netcrew.co.jp/site/cnproject/about.html>

(「HTML ソースで編集できる箇所」で作ったページ)

(Username : hiroshima、Password : h1r0sh1m@)

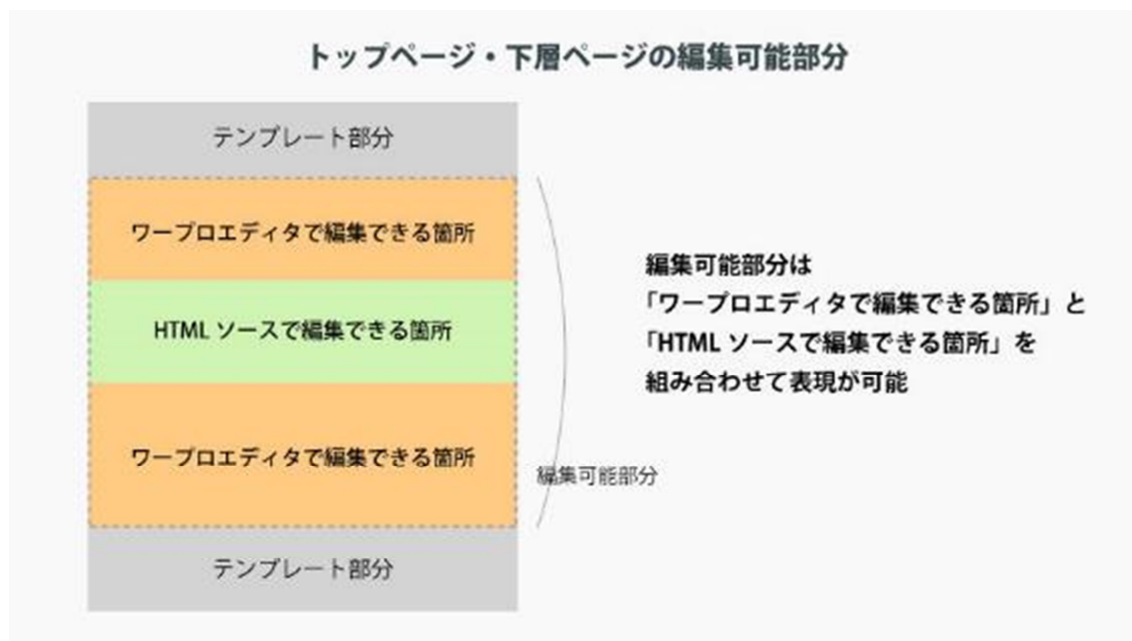
(まとめ) 編集可能部分の構成とそれぞれの特徴

	ワープロエディタで 作成・編集できる箇所	HTML ソースで 作成・編集できる箇所
class, id などをつけてデザインや インタラクティブを自由に表現	×	◎
職員の更新	◎	×

繰り返しになりますが、基本的に職員が更新できる箇所は「ワープロエディタで作成・編集できる箇所」に限られます。ご注意ください。

(ウ) 2箇所組み合わせについて

テンプレートと組み合わせると以下のように表現できます。「ワープロエディタで編集できる箇所」と「HTML ソースで編集できる箇所」はどちらか一方の箇所のみでページを作成することも、組み合わせて表現することも可能です。



(エ) スタイリングについて

スタイリングを進める際は

1. タグセレクタの指定
2. class, id セレクタを使った指定

の順で作成してください。また親子セレクタや兄弟セレクタなど詳細度が高まる指定はしないでください。詳細度が高いタグセレクタを使用するとワープロエディタでページを作成した際、標準で用意されている HTML タグへのスタイルが意図せず上書きされたりする恐れがあるからです。

2-2-3.その他の標準機能

広島県 CMS には標準で用意されている機能が存在します。

- アクションボタン機能 (いわゆるコンバージョンボタン) [トップページ、下層ページ]
- 新着情報表示機能 [トップページのみ] (「2-3-1. 新着情報」参照)

アクションボタン機能（いわゆるコンバージョンボタン）とは、CMS の管理画面で「表示する」の設定を行なうと、ページの右下に表示されるボタンのことです（下画像参考）。Web サイト構築時には不要だとしても、機能をオンにした際にはサイトデザインに合わせたスタイルが適用されるようあらかじめ CSS を用意してください。

コードの詳細はサンプルファイルを参考にしてください。



2-3. トップページについて

「2-1-1. テンプレート」の通り、トップページはテンプレート出力部分と編集可能部分の組み合わせでできています。「ワープロエディタで作成・編集できる箇所」の位置は担当課と広報課に相談の上、決定してください。

2-3-1. 新着情報

トップページには新着情報を掲載できます。これは管理画面でチェックを入れる则表示される CMS の標準機能です。新着情報は、Web サイト構築時には不要だとしても、機能をオンにした際にはサイトデザインに合わせたスタイルが適用されるようあらかじめ CSS を用意してください。

新着情報エリアで表示可能な情報は

- 日付（20〇〇年〇月〇日 形式）
- リンク付きページタイトル
- サムネイル画像（新着情報に掲載するリンク先ページの 1 枚目の画像）

- サムネイル画像 代替テキスト（新着情報に掲載するリンク先ページの1枚目の画像に設定した代替テキスト）
の4つです。

省略された情報は「一覧を見る」ボタン等ですべての情報が同ページ・同デザインで表示される仕様になっています。



なお、新着情報はテンプレート出力部分に組み込んでください。
コードの詳細はサンプルファイルを参考にしてください。

広島県 CMS テスト環境

<http://hiroshima-cms2017.netcrew.co.jp/site/cnproject/>（新着情報有 トップページ）

（Username : hiroshima、Password : h1r0sh1m@）

2-4. 下層ページについて

「2-1-1. テンプレート」の通り、最終ページもテンプレート出力部分と編集可能部分の組み合わせでできています。編集可能部分の位置は担当課と広報課に相談の上、決定してください。

3.具体的なコーディングルールについて

テンプレートのデザイン、HTML、CSS を作成する場合、日本産業規格の定める JIS 規格（JIS X 8341-3：2016）に準拠したアクセシビリティ、および広島県の指定する情報バリアフリーの考え方が守られたページを作成してください。守るべきアクセシビリティの内容に関しては、アクセシビリティガイドラインを参照してください。以降はその他に具体的に守るべきコーディングルールです。

No.	項目	詳細
1	HTML バージョン	• HTML Living Standard を採用する • 書式もこれに従うものとする
2	文字コード	• 全てのソースファイルの文字コードは UTF-8 とする
3	META タグ	• 以下の meta タグを<head>から</head>の間に記述する <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" /> <meta http-equiv="Content-Language" content="ja" /> <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" /> <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/JavaScript" /> • <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1.0">
4	文書構造	• <見出し>、<本文>、<リスト>といった文書構造を意識し、Web 標準に応じた構造化タグを使用すること •
タグの連続による見た目のみの段落分けや、全角スペースを用いたインデント・センタリングなどの文字位置調整を行わないこと • リストは<dl>などのリストタグを使用し、文字や記号を使用した見た目のみのリスト風装飾は行わないこと • <table>タグを使用したテーブルレイアウトは行わないこと
5	h1 タグ	• 各ページで必ず 1 つ必要であり、2 つ以上は使用できない • ページタイトル（title タグ）の内容と同一の内容となる • 必ずテンプレート出力部分に入れる必要がある

6	見出しタグ	• h タグは h1→h2→…と順に飛ばすことなく使用すること • h2 以降は複数使用可能である
7	alt 属性	• alt 属性は必須項目である • 未記述、空欄は不可である • 前後行のテキスト（h タグ、p タグ、li タグ、alt 属性の値等）と同じ値は使用できない • システム上、記号等の装飾画像に対しても必要である
8	機種依存文字	• 機種依存文字はアクセシビリティの観点から絶対に使用しないこと（例：①、崎、ッ など） • windows、mac 各々でしか見られない機種依存文字もあるので注意すること
9	同タブ・別タブ	• サイト内コンテンツのリンクは同タブで開くこと • 外部コンテンツのリンクは別タブで開くこと
10	リンク切れ	• ディレクトリ構造についてでも示した通り、各リンクファイルへの正しいパスが記述されておりリンク切れしていないか確認すること
11	コメントアウト	• 意味のないコメントは記述しないこと • 広島県庁サイトとして相応しくない内容のコメントは記述しないこと
12	装飾	• Web サイトの装飾は、CSS で記述すること
13	レスポンス	• レスポンシブ Web デザインに対応すること
14	ファイル名およびフォルダ名	• ファイル名/フォルダ名は半角英数小文字、ハイフンのみを使用し命名すること • ファイル名/フォルダ名に半角英数大文字、アンダースコアは使用できない
15	不要なファイル	• 使用していないファイルは削除すること
16	表示確認	• 納品前には必ず担当課（担当者）に実機（PC、スマホ）で表示確認を行ない、問題がないことを確認すること
18	使用言語	• 日本語を初期値として指定する ただし、英語・中国語についても、HTML 全体の指定及び文字単位での指定も可能
19	対応ブラウザ	• Google Chrome、Microsoft Edge、Safari、Firefox など一般的に普及しているブラウザを基準とする

		• PC、タブレット、スマホのすべてに対しレスポンスに対応すること • 作成する場合、異常が無いことをブラウザ上で確認し、印刷についても問題がないことを確認すること
20	画像ファイル	• 画像ファイルは可能な（画質が劣化しない）限り圧縮し、軽量化すること
21	添付ファイル	• 添付ファイルを設置する場合には、ファイル形式とファイルサイズを明記すること • 日本語などマルチバイト文字をファイル名に用いないこと
23	個人情報の保護と免責事項の掲載	• 全ページに、個人情報の取り扱いに関する情報が記載されたページへのリンク、および掲載する情報に関する免責事項を記載したページへのリンクを設置することが望ましい
24	OGP タグ	• 以下の OGP タグを<head>から</head>の間に記述すること <meta property="og:locale" content="ja_JP" /> <meta property="og:site_name" content="サイト名" /> <meta property="og:type" content="website" /> <meta property="og:title" content="各ページのタイトル" /> <meta property="og:description" content="各ページの説明文" /> <meta property="og:image" content="サブサイト独自の画像(絶対パスで記載)" /> <meta name="twitter:card" content="summary_large_image" />
25	アクセス解析 (Google Tag Manager)	• 広島県 CMS 共通の GTM があるため、基本的には記述しないこと
26	URL 判定	• プレビューで自動生成される URL でもデザイン確認ができるように、URL で判定する JavaScript は基本的には使用しないこと。